東北家庭科教育研究　No.3 pp. 19-26　(2004.7)

家庭生活についての全国調査　東北データの分析（第3報）
－母親と父親の就労形態からみた東北と全国の比較－

日景弥生[*1]，中屋紀子[*2]，渡瀬典子[*3]，長澤由喜子[*3]
浜島京子[*4]，黒川衣代[*5]，高木　直[*6]，砂上史子[*1]

[*1]弘前大学教育学部，[*2]宮城教育大学，[*3]岩手大学教育学部、
[*4]福島大学教育学部，[*5]秋田大学教育文化学部，[*6]山形大学教育学部

Survey on Children's Consciousness and Behavior in Family Life:
Analysis of the Data in the Tohoku District (3)
- Comparison of Tohoku and National Data from the Viewpoint of Working Patterns of Mothers and Fathers -

Yayoi HIKAGE　*Faculty of Education, Hirosaki University*
Noriko NAKAYA　*Miyagi University of Education*
Noriko WATASE　*Faculty of Education, Iwate University*
Yukiko NAGASAWA　*Faculty of Education, Iwate University*
Kyoko HAMAJIMA　*Faculty of Education, Fukushima University*
Kinuyo KUROKAWA　*Faculty of Education and Human Studies, Akita University*
Nao TAKAGI　*Faculty of Education, Yamagata University*
Fumiko SUNAGAMI　*Faculty of Education, Hirosaki University*

1. 研究目的

第1報では東北データの概要と，それらのデータを独自に設定した地域別により検討した。第2報では，東北地区の児童・生徒の家庭生活の現状が20年前と比べてどのように変化したか，全国と比較した東北地区の特徴を明らかにした。第3報では，子ども達が家の仕事を行う程度と母親と父親の就労形態とは関連するのではないかと考え，これについて東北と全国のデータを比較分析することを目的とした。

2. 研究方法

（受付2004年4月16日／審査終了2004年4月28日）
〒036-8560 弘前市文京町1番地　弘前大学教育学部

(1) 調査対象および調査時期

対象者を表1に示す。対象者は，東北では小学4年生619名(20.2%)，小学6年生790名(25.8%)，中学2年生685名(22.4%)，高校2年生970名(31.6%)の計3064名で全国では小学4年生1484名(21.3%)，小学6年生1514名(21.8%)，中学2年生1870名(26.9%)，高校2年生2091名(30.0%)の計6959名を対象とした。なお，データの集計上，対象者をアンケートの全ての項目

表1　対象

	小4	小6	中2	高2	合計
東北	619	790	685	970	3064
(%)	(20.2)	(25.8)	(22.4)	(31.6)	(100)
全国	1484	1514	1870	2091	6959
(%)	(21.3)	(21.8)	(26.9)	(30.0)	(100)

注）全ての項目に回答している者

に回答した者としたため，第1報および2報とは異なる人数となった。

(2) 調査時期およびアンケート項目

本調査は日本家庭科教育学会が全国規模で行った「家庭生活についてのアンケート」[1)]と同じアンケートを2001年9月に実施した。本報ではそのうち家庭生活における子どもの衣食住等の技能と家族の特性にかかわる22項目を取り上げた。これらの項目を表3に示す。

(3) 分析方法

20年前の同様な調査[2)]から，子どもの家の仕事を行う程度と母親の就労の有無との関連が示唆されたことから，本報でもそれらの関連をみるために上述した22項目とアンケート項目中の「あなたのお母さん（またはお父さん）はどのような仕事をしていますか。」の回答をクロス集計し，t 検定により有意差を調べた。また，家の仕事には両親の就労形態のほかに，「一緒に住んでいる家族の人数」や「一緒に住んでいる人」も関連すると考えられることから，それらも考察に用いた。

3. 結果および考察

(1) 母親と父親の就労の有無とその形態

a) 労働をしている母親と父親の割合

母親と父親の職業を表2に示す。「両親」が働いている家庭，つまり表2の母親と父親とも①～④に属する者は東北1892人(61.7%)，全国4046人(58.1%)となった。また，「母親だけ」が働いている家庭，つまり表2の母親が①～④，父親が⑤または⑦に属する者は東北146人(4.8%)，全国309人(4.4%)となり，「父親だけ」が働いている家庭，つまり表2の母親が⑤または⑦，父親が①～④に属する者は東北567人(18.5%)，全国1435人(20.6%)となった。これより，「両親」と「母親だけ」が働いている家庭の割合は東北の方が多く，「父親だけ」が働いている家庭の割合は全国の方が多い結果となった。

b) 母親と父親の就労形態

表2より，両親ともフルタイム就労家庭，つまり表2の，母親と父親とも①に属する者（以下「フルタイム」とする）は東北897人(29.3%)，全国1485人(21.3%)，

表2　母親と父親の就労形態

東北

		父親　(%)								計
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	
母親(%)	①	897(29.3)	14(0.5)	32(1.0)	12(0.4)	11(0.4)	14(0.5)	89(2.9)	28(0.9)	1097(35.8)
	②	526(17.2)	82(2.7)	48(1.6)	24(0.8)	5(0.2)	23(0.8)	32(1.0)	35(1.1)	775(25.3)
	③	46 (1.5)	5(0.2)	132(4.3)	2(0.1)	1(0.0)	3(0.1)	8(0.3)	7(0.2)	204(17.1)
	④	23 (0.8)	2(0.1)	2(0.1)	45(1.5)	0(0.0)	0(0.0)	3(0.2)	1(0.0)	76 (2.5)
	⑤	437(14.3)	30(1.0)	43(1.4)	10(0.3)	4(0.1)	16(0.5)	17(0.6)	39(1.3)	596(19.5)
	⑥	45 (1.5)	2(0.1)	4(0.1)	1(0.0)	0(0.0)	34(1.1)	2(0.1)	2(0.1)	90 (2.9)
	⑦	39 (1.3)	2(0.1)	6(0.2)	1(0.0)	2(0.1)	2(0.1)	10(0.3)	3(0.1)	65 (2.1)
	⑧	91 (3.0)	4(0.1)	12(0.4)	8(0.3)	2(0.1)	6(0.2)	6(0.2)	32(1.0)	161(5.2)
計		2104(68.7)	141(4.6)	279(9.1)	103(3.4)	25(0.8)	98(3.2)	167(5.5)	147(4.8)	3064(100)

全国

		父親　(%)								計
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	
母親(%)	①	1485(21.3)	23(0.3)	67(1.0)	23(0.3)	15(0.2)	34(0.5)	179(2.6)	46(0.7)	1872(26.9)
	②	1626(23.4)	130(1.9)	124(1.8)	23(0.3)	14(0.2)	62(0.9)	88(1.3)	87(1.3)	2154(30.8)
	③	80 (1.1)	6(0.1)	317(4.6)	6(0.1)	0(0.0)	6(0.1)	13(0.2)	11(0.2)	439 (6.3)
	④	36 (0.5)	1(0.0)	5(0.1)	94(1.4)	0(0.0)	2(0.0)	2(0.0)	4(0.1)	144 (2.1)
	⑤	1185(17.0)	62(0.9)	95(1.4)	15(0.2)	12(0.2)	53(0.8)	26(0.4)	95(1.4)	1543(22.1)
	⑥	111(1.6)	9(0.1)	13(0.2)	4(0.1)	0(0.0)	80(1.1)	26(0.4)	9(0.1)	252 (7.5)
	⑦	64 (0.9)	6(0.1)	8(0.1)	1(0.0)	3(0.0)	11(0.2)	10(0.1)	7(0.1)	110 (1.6)
	⑧	259(3.7)	12(0.2)	26(0.4)	7(0.1)	2(0.0)	13(0.2)	23(0.3)	103(1.5)	445 (6.4)
計		4846(69.6)	249(3.6)	655(9.4)	173(2.5)	46(0.7)	261(3.8)	367(5.3)	362(5.2)	6959 (100)

①朝から一日中つとめに出ている　②ある時間だけつとめに出ている（パート）　③自分の家の店や工場で働いている
④農業や漁業などの仕事をしている　⑤仕事はしていない　⑥わからない　⑦お父さんまたは、お母さんはいない
⑧その他

母親がパートタイム就労で父親がフルタイム就労の家庭，つまり表2の，母親が②，父親が①に属する者(以下「パート」とする）は東北526人(17.2%)，全国1626人(23.4%)，母親が無職で父親がフルタイム就労の家庭，つまり表2の，母親が⑤，父親が①に属する者（以下「無職」とする）は東北437人(14.3%)，全国1185人(17.0%)となり，全国に比べて東北では「フルタイム」が多く，「パート」や「無職」は少ないことがわかった。

そこで，以下では，勤労者世帯の就労形態のうち代表的な「フルタイム」，「パート」，「無職」の3つの形態の家庭について子ども達の家の仕事を行う程度と家族の特性を分析することにした。

(2) 東北と全国における「フルタイム」，「パート」および「無職」家庭の子ども達の家の仕事を行う程度と家族の特性

東北と全国における「フルタイム」，「パート」および「無職」家庭の子ども達の家の仕事を行う程度と家族の特性を*t*検定し，その結果を表3に示す。これより，「フルタイム」と「パート」では各5項目，「無職」では2項目で有意差がみられた。つまり，「フルタイム」では，東北の方が，朝ごはんを家族みんなと一緒に食べたり，食器を洗ったり，洗濯機で衣服の洗濯をしたり，とれたボタンをつけたり，ゴミを決められた方法でいつも出す子どもが多いことがわかった。

「パート」では，東北の方が，朝ごはんを家族みんなと一緒に食べたり，洗濯機で衣服の洗濯をしたり，とれたボタンをつけたり，家族に頼まれた買い物をよくしている子どもが多いが，全国の方が食事の用意をする母親が多いことがわかった。

「無職」では，東北の方が，フライパンや鍋を使って料理する子どもが多いことや，食事の用意をする父親が多いことがわかった。

そこでこれらのうち，複数の就労形態で有意差のみられた「朝食を誰と食べるか」，「洗濯機で衣服の洗濯をする」および「ボタンのとれた時に，ボタンをつける」について詳細に分析した。3つの就労形態における各項目の割合を図1に示す。

①「朝食を誰と食べるか」

図1より，どの就労形態でも東北の方が全国より朝食を「家族みんなと」とっている子どもが多くみられ，「大人の誰かと」でも「パート」で約1%全国の方が高くなったが，「フルタイム」と「無職」では東北の方が多いことがわかった。さらに，東北と全国とも「フルタイム」と「パート」では「子どもだけ」で食べている家庭が多いこともわかった。

5つの選択肢の多い順を就労形態ごとにみると，「無職」の東北では「大人の誰かと」＞「家族みんなと」＞「一人で」＞「子どもだけ」＞「食べない」の順となったが，それ以外の家庭，つまり「フルタイム」と「パート」の東北と全国，「無職」の全国では，「一人で」＞「大人の誰かと」＞「家族みんなと」＞「子どもだけ」＞「食べない」となった。特に，全国では母親が無職でも子どもが朝食を一人で食べている割合が5つの選択肢の中では最も高く，その割合は27.0%だった。また，「食べない」子どもは東北と全国とも3つの就労形態の全てにみられたが，その割合は「無職」で少なく「パート」と「フ

表3　3つの就労形態における東北と全国の比較

アンケート項目	1	2	3
Q2-3　朝食を誰と食べるか	***	***	
Q2-4　夕食を誰と食べるか			
Q3-1　外出する時に安心な所持金額			
Q4-1ア　包丁で食べ物を切る			
イ　食器を洗う	***		
ウ　フライパンや鍋を使って料理する			*
エ　家族の夕食を作る			
オ　洗濯機で衣服の洗濯をする	**	**	
カ　洗濯物をたたむ			
キ　ボタンのとれた時にボタンをつける	*	*	
ク　季節や気候にあった服装を自分できめる			
ケ　パソコンを使って暮らしの情報を集める			
コ　部屋を掃除して、きれいにする			
サ　家族に頼まれた買い物をする		**	
シ　すごしやすくなるように部屋の温度や空気を調節する			
ス　ゴミを決められた方法で出す	*		
セ　電気や水を使い過ぎないように、注意や工夫をする			
ソ　包装などがゴミになりにくい物を選んで買う			
タ　近所の人に挨拶をする			
チ　お年寄りや体の不自由な人に声をかけたり手助けをする			
ツ　子どもの遊び相手をする			
Q13-4　母親の食事の用意		*	
Q13-5　父親の食事の用意			*

1) *p<0.05, **p<0.01, ***p<0.001
2) 1;「フルタイム」, 2;「パート」, 3;「無職」
3) アンケート項目の番号は全国調査のものである。

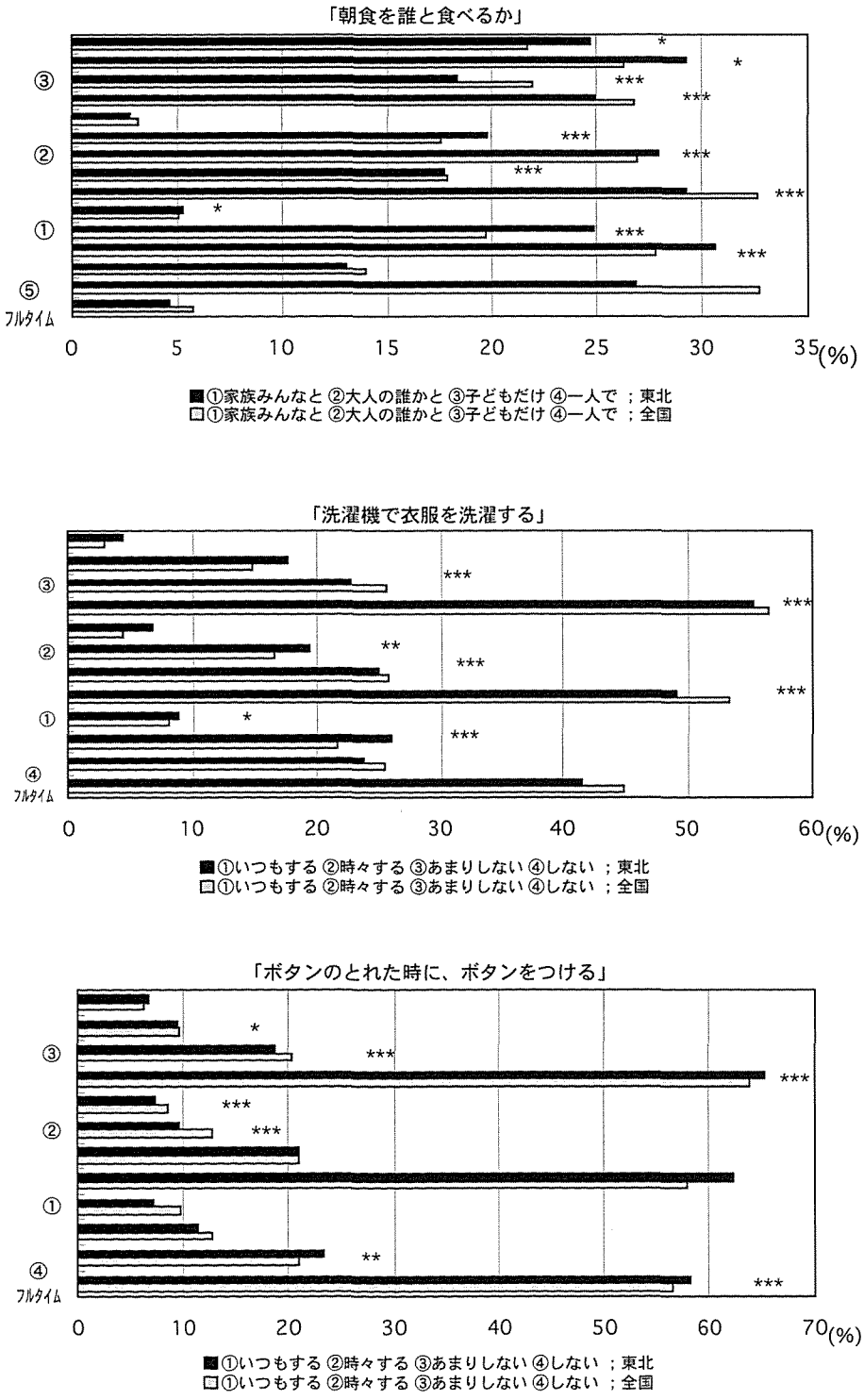

図1　3つの就労形態における子ども達の生活実態

ルタイム」では高くなった。「食べない」子どもは高校2年生で特に多く，その割合は「フルタイム」では東北で8.8%，全国で9.9%，「パート」では東北で9.6%，全国で8.1%，「無職」では東北で3.7%，全国で6.2%となり，上述のように「フルタイム」と「パート」で朝食をとらない子どもが多いが，「無職」でも多いことがわかった。

そこで，それぞれの場合についてt検定し、その結果を図1中に示した。それより，「フルタイム」では「家族みんなと」と「大人の誰かと」に，「パート」では5つの全ての選択肢に，さらに「無職」の場合には「食べない」を除く4つの選択肢に有意差がみられた。

②「洗濯機で衣服の洗濯をする」

図1より，どの就労形態でも洗濯機で衣服の洗濯を「しない」子どもが非常に多く，「フルタイム」では東北で42.1%，全国で44.8%，「パート」では東北で49.4%，全国で53.3%，「無職」では東北で54.9%，全国で56.5%となり，「無職」で最も多くなった。また，「しない」子どもは，どの就労形態でも全国の方が東北より多いことがわかった。一方，「いつもする」子どもは，どの就労形態でも4つの選択肢の中では最も少なく，「フルタイム」では東北で9.8%，全国で8.0%，「パート」では東北で6.3%，全国で4.4%，「無職」では東北で4.7%，全国で2.9%となり，「フルタイム」では「パート」や「無職」に比べて多いことがわかった。

5つの選択肢の多い順を就労形態ごとにみると，「フルタイム」の東北では「しない」＞「時々する」＞「あまりしない」＞「いつもする」の順となったが，それ以外の家庭，つまり「フルタイム」の全国と，「パート」と「無職」の東北と全国では，「しない」＞「あまりしない」＞「時々する」＞「いつもする」の順となった。これより，東北の「フルタイム」では「時々する」子どもが他の場合より若干多くみられた。

そこで，それぞれの場合についてt検定し、その結果を図1中に示した。これより，「フルタイム」では「いつもする」と「時々する」に，「パート」では「時々する」「あまりしない」「しない」に，「無職」では「あまりしない」と「しない」に有意差がみられ，全国の方が洗濯機洗いはしない子どもが多いことが明らかとなった。

以上のことより，東北と全国とも洗濯機洗いを「しない」子どもが多く，その割合は全国の方が東北より多いことがわかった。さらに，母親が働いている家庭では子どもが洗濯機洗いをする割合は高く，母親が働いていない家庭ではあまりしないことがわかった。

③「ボタンのとれた時に，ボタンをつける」

図1より，どの就労形態でもボタンのとれた時に，ボタンを「つけない」子どもが非常に多く，「フルタイム」では東北で58.9%，全国で56.4%，「パート」では東北で61.4%，全国で57.7%，「無職」では東北で63.9%，全国で64.0%となり，「無職」で最も多くなった。また，「しない」子どもは，「無職」の東北と全国ではほぼ同じ割合となったが，「フルタイム」と「パート」では東北の方が全国より多いことがわかった。一方，「いつもする」子どもは，どの就労形態でも4つの選択肢の中では最も少なく，「フルタイム」では東北で7.9%，全国で9.7%，「パート」では東北で7.8%，全国で8.4%，「無職」では東北で6.5%，全国で6.2%となり，「フルタイム」では「パート」や「無職」に比べて多いことがわかった。

5つの選択肢の多い順を就労形態ごとにみると，全ての場合，つまり「フルタイム」，「パート」および「無職」の東北と全国とも，「しない」＞「あまりしない」＞「時々する」＞「いつもする」の順となった。

そこで，それぞれの場合についてt検定し、その結果を図1中に示した。それより，「フルタイム」家庭では「あまりしない」と「しない」に，「パート」では「いつもする」と「時々する」に，「無職」では「時々する」，「あまりしない」および「しない」に有意差が認められた。これより，どの就労形態でも東北は全国よりボタンつけはあまりしないことが明らかとなった。前述した「洗濯機で衣服の洗濯をする」における東北と全国の比較では，東北の方が全国より洗濯機洗いを「する」子どもが多くみられたが，この項目ではそれとほぼ逆の結果となった。

以上のことから，「洗濯機で衣服の洗濯をする」と「ボタンのとれた時に，ボタンをつける」は東北と全国でその割合に若干の違いがあるが，両者は同様な傾向を示した。すなわち，全体的にみると東北と全

国ともボタンつけを「しない」子どもが多いが，母親が働いている家庭では子どもがボタンつけをする割合は高く，母親が働いていない家庭ではあまりしないことがわかった。また，今回の調査結果である洗濯をしない子どもやボタンつけをしない子どもが多いことは，小・中・高校生が平日，家事に費やす時間は小学生で13分，中学生で11分，高校生で19分と非常に少ないこと[3]を裏付けた。しかし，「朝食を誰と食べるか」では東北と全国で就労形態により異なることが明らかとなった。そこで，次に「朝食を誰と食べるか」について詳細にみることにした。

(3) 各就労形態における「朝食を誰と食べるか」と家族の人数との関連

「朝食を誰と食べるか」の選択肢のうち，「家族みんなで」と「大人の誰かと」を「大人と」に，「子どもだけ」と「一人で」を「子ども」とし，それを就労形態と地区別に集計した結果を表4に示す。これより，「大人と」食べている家庭の割合は，どの就労形態でも東北の方が全国より高く，その差は「フルタイム」では7.9ポイント，「パート」では3.2ポイント，「無職」では5.9ポイントとなった。また，「大人と」食べている家庭の割合が「子ども」より高いのは，東北では全て，全国では「フルタイム」となり，全国の「パート」と「無職」では「子ども」と食べている家庭の方が多くなった。つまり，全国の母親が働いていない家庭とパートで働いている家庭では，子どもが一人または子どもだけで朝食をとっている家庭が多いことが明らかとなった。

表4 「朝食を食べているか」の割合

	東北			全国		
	①	②	③	①	②	③
「ﾌﾙﾀｲﾑ」	55.4	40.0	4.6	47.5	46.7	5.8
「パート」	47.7	47.0	5.3	44.5	50.5	5.0
「無職」	54.0	43.3	2.7	48.1	48.8	3.1

①「大人と」；「家族みんなと」と「大人の誰かと」を選択した割合
②「子ども」；「子どもだけで」と「一人で」を選択した割合
③「食べない」

そこで，その要因を探るために東北と全国における就労形態別にみた家族の人数を図2に示す。全国ではどの就労形態でも4人をピークとする山型を呈するが，東北では「無職」と「パート」では4人，「フルタイム」では5人から6人をピークとするなだらかな山型を示した。つまり，東北では全国に比べて家族数が多く，特に「フルタイム」家庭ではそれが顕著にみられた。これより，家族の人数と「朝食を誰と食べるか」とは関連することが示唆され，中でも三世代同居，すなわち祖母または祖父との同居の有無が関連すると考えた。

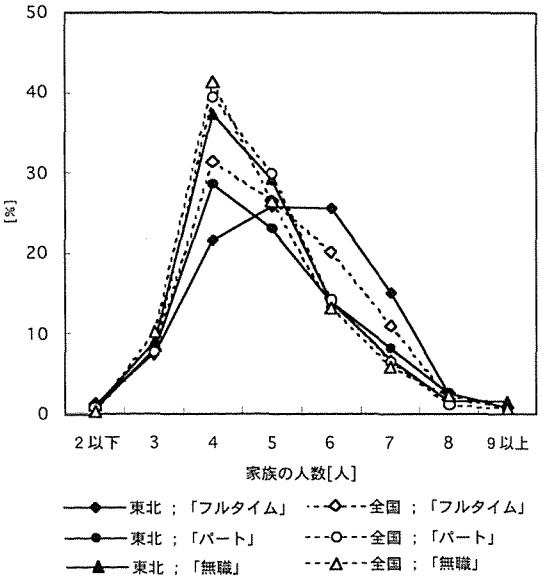

図2 3つの就労形態における家族の人数

そこで，「朝食を誰と食べているか」と祖父母の同居率を表5に示す。「大人と」食べている子どもの割合に着目すると，東北の「フルタイム」では祖母または祖父と同居している家庭では「大人と」食

表5 「朝食を食べているか」と祖父母との同居率

	祖父母	東北			全国		
		①	②	③	①	②	③
「ﾌﾙﾀｲﾑ」	いる	34.3	25.1	2.5	22.8	19.4	1.8
	いない	21.1	14.9	2.1	24.7	27.3	4.0
「ﾊﾟｰﾄ」	いる	19.6	15.4	2.5	13.4	12.0	3.4
	いない	28.1	31.6	2.8	31.1	38.5	1.6
「無職」	いる	16.9	11.0	0.5	12.9	9.6	0.7
	いない	37.1	32.3	2.2	35.2	39.2	2.4

①「大人と」；「家族みんなと」と「大人の誰かと」を選択した割合
②「子ども」；「子どもだけで」と「一人で」を選択した割合
③「食べない」

べている割合は34.3%と高く，それ以外，つまり全国の「フルタイム」と東北と全国の「パート」と「無職」ではその関連はみられなかった。

そこで，祖父母との同居率と家族の人数との関連を図3に示す。東北と全国とも，家族の人数が増すと祖父母との同居率は高く，東北では家族の人数が少なくても祖父母との同居率は全国より高いことがわかった。その傾向は東北の「フルタイム」で顕著であった。これより，東北の母親がフルタイムで働いている家庭では，朝食を大人と食べる割合は祖父母との同居と深く関わることが明らかとなった。しかし，他の場合には，その傾向が明らかではなかった。

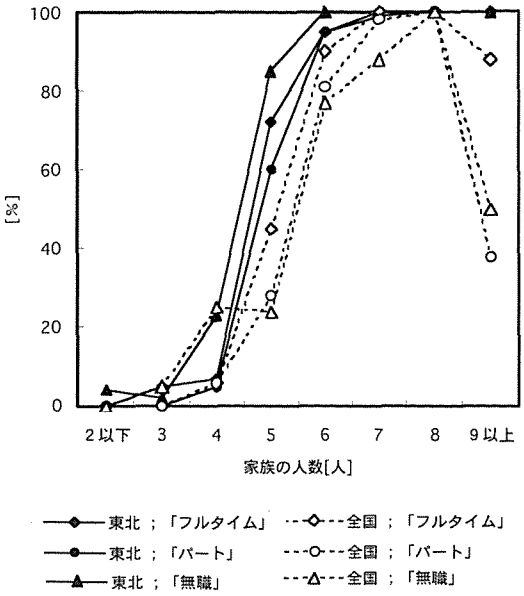

図3　祖父母の同居率と家族の人数

猪野は幼児のいる家庭の朝食の調査から，“幼児のいる家庭でさえ家族そろって朝食をとることがむずかしくなっている“ことを報告[4]し，その要因として次のことをあげている。“特に，家族成員の多い家庭(三世代四世代同居家庭)，母親が職業をもっている家庭にこの傾向がみられる。つまり，①子どもの年齢：年齢や発達によってそれぞれの生活のパターンをもっていること，②両親の仕事の内容と勤務形態(早朝出勤，通勤時間)，③祖父母の生活(朝食前に農作業など)が関係している”。本調査が小学4年生から高校2年生を対象としているのに対し，猪野の調査は幼児のいる親を対象としていることから同一に比較することは難しいが，朝食を家族がそろって食べることはさらに難しくなってきていることは明らかである。

本調査の東北の「フルタイム」で朝食を大人ととっている子どもの食生活技能(Q4-1のア～エ)の「いつもする」と「時々する」を加えた割合は，「包丁食べ物を切る」29.3%，「食器を洗う」29.7%，「フライパンや鍋を使って料理する」29.0%，「家族の夕食を作る」11.7%となり，子どもだけで朝食をとっている者の割合(順に21.2%，21.1%，21.2%，8.0%)に比べていずれも高いポイントとなった。このことは，大人と一緒に食事をする子どもの方が食事にかかわる手伝いの参加状況や食知識が高く[5]，それは結果的に生活技能を高めると考えられることから，朝食を「大人と」一緒にとることを高めるための要因を探る必要がある。東北の「フルタイム」では猪野の指摘と反対の結果，つまり家族成員の多い家庭は「大人と」食べる割合が高く，プラスの効果をもたらしていることがわかった。しかし，東北と全国とも母親がパートで働いている家庭や働いていない家庭では，祖父母との同居率は比較的高いにも関わらず「大人と」食べる割合は低かった。この原因には，猪野の指摘する母親の早朝勤務や通勤時間は考えにくく，むしろ，パート勤務をしている母親自身の家事や家族への意識，つまり“家族に迷惑をかけないように家事も今まで通り全て行おうとする”ことと，家族員の意識，つまり“母親はフルタイム勤務ではなくパート勤務なのだから，家事も今まで同様にできるはずだ”[6]があいまって，子どもが食事をしている時に家事をこなしている実態が推測される。そして，これは働いていない母親にもあてはまり，無職の母親は家事を一人で全て完璧にこなそうとする，いわゆる固定的な性別役割分担の意識が根強いためと考える。しかし，母親の意志に反して現実には家庭内の食教育のような目に見えない面で家族，特に子ども達にしわよせがいっていると考えられる。

以上のことから，誰かと食事を共にする共食が食事本来の目的の一つであること[7]，共食が人間の交

流と連帯を深める機能を持ち，食事を共にする最も基本的な単位が家族であること[8]，さらに1998年の中央教育審議会において「家族が一緒に食事をとる機会を確保する」[9]という提言をふまえると，家庭科のカリキュラムにおいて家族関係の視点から食事の重要性に気づかせる必要性がある。例えば，食事場面を活用して，食についての学びと家族関係についての学びをクロスオーバーさせていくことが考えられる。また，夕食に比べ朝食に孤食傾向が高いことは，上述の母親自身の家事や家族への意識と家族員それぞれの登校，出勤時間の違いやその準備の慌しさなどが複雑に関連しながら影響していると考えられることから，家族の間での時間のやりくりや家事分担なども食事を考える上で，重要になると言える。今後，食事をめぐる家族のあり方も含めた食教育の充実が求められる。

さらに，生活技能の面で，全国と東北の比較において，両親ともフルタイム就労家庭，母親がパートタイム就労で父親がフルタイム就労の家庭，母親が無職で父親がフルタイム就労の家庭を分析したところ，母親が無職で父親がフルタイム就労の家庭ではほとんど違いがないが，他の2つではいくつかの項目で有意差がみられた。また，それらの家庭を三世代同居に分けて分析したところ，東北の両親ともフルタイム就労家庭では祖父母の影響がみられたが，他の場合には違いがみられなかった。こうしたことから，生活技能に関しては家族形態や規模以上に家族のそれぞれがどのような関係を作り，生活を営んでいるかということに注目することが必要であると言える。

4. まとめ

2001年に日本家庭科教育学会が行った「家庭生活についてのアンケート」結果をもとに，本報では家庭生活における子どもの衣食住等の技能と家族の特性にかかわる22項目を取り上げ，それらを東北地区と全国とで比較・検討した。

その結果，以下のことが明らかとなった。

1. 母親と父親の就労割合は東北の方が高く，全国と比較した結果有意差がみられた。
2. 勤労者世帯のうち母親と父親の就労形態別でみると，東北では「両親ともフルタイム就労」の家庭の割合が高く，全国と比較して母親がパートタイムや無職の家庭の割合は少なかった。
3. 2の就労形態別に全国と東北の子どもの実態をみると，「両親ともフルタイム就労」や「母親がパートタイムで父親がフルタイム就労」の家庭では「朝食を誰と食べるか」，「洗濯機で衣服の洗濯をする」，「ボタンのとれた時に，ボタンをつける」などで有意差がみられた。このうち，「朝食を誰と食べるか」では東北地区の「両親がフルタイム就労」で祖父母との同居に関連することが確認された。

本論文を執筆するにあたり，データ集計にご協力頂きました弘前大学教育学部4年池原優希さんに心から感謝申し上げます。

5. 参考文献

1) 日本家庭科教育学会，児童・生徒の家庭生活の意識・実態と家庭科カリキュラムの構築―家庭生活についての全国調査の結果―報告書，2002
2) 日本家庭科教育学会東北地区会，現代のこどもは家庭生活をどう考えているか，盛岡，熊谷印刷，1984，p.74
3) 林邦雄，谷田貝公昭，図解子ども事典，東京，一藝社，2004，p.60
4) 猪野郁子，家政学シリーズ5　子どもの発達と家庭生活，朝倉書店，1988，p.132
5) 佐々尚美ほか，大人と一緒の食事が子どもの食意識・食態度・食知識に及ぼす影響，日本家庭科教育学会誌46(3)，2003，p.226-232
6) 鹿島敬，男と女変わる力学，東京，岩波新書，1989，p132
7) 藤澤由美子・坂本元子，食がつくる「元気のモト」――子どもの食事はどうなっているか，児童心理11月号（No.795），金子書房，2003，p.40-45
8) 前田ひろみ，食事の文化，福田公子・間田泰弘（編），『家庭・技術科　重要用語300の基礎知識』，東京，明治図書，2000，p.109
9) 中央教育審議会答申，新しい時代を拓く心を育てるために―次世代を育てる心を失う危機―，1998